

平成23年度山都町立国民健康保険蘇陽病院改革プランの点検・評価について公表します。

本年度の病院事業は、5月より熊本県及び熊本県へき地支援機構の協力により、益城病院から医師の派遣を受けて北部・井無田へき地診療所に於いて、心療内科、精神科の診療を始めることが出来ました。月に各診療所併せて5日と少ない診療日ではありますが、徐々に患者数も増加しています。また、地区住民及び病院職員の長年の夢でありました病院建設の起工式が9月に行われました。約1年後には完成の予定です。収入面では、入院収入において入院延患者数296名(対前年度比△1.77%)減少、一人当たり単価も39円減となり8,118千円(対前年度比△1.93%)減収となりました。外来医科においては、1人あたりの単価が61円増となり1,953千円(対前年度比0.78%)の増収となりましたが、歯科において2,522千円(対前年度比△1.01%)減収となり入院・外来を合わせた総診療収入額は8,687千円(対前年度比△1.24%)減収となりました。支出面では、医業費用において13,588千円(対前年度比1.73%)増、医業外費用においては本体工事建設費用に伴う消費税増により14,074千円(対前年度比23.17%)増となりました。医業収益は770,965千円(対前年比1.10%増)、医業費用786,384千円(対前年度比1.73%増)、総収益864,019千円(対前年度比3.02%減)、総費用840,505千円(対前年度比3.11%減)、差引き23,514千円の黒字決算となりました。今後もへき地医療拠点病院として、二次医療施設として良質な医療を提供すると共に更なる健全経営に向け努力します。

1. 収支状況

	平成22年度			平成23年度			点 検	評 価
	目標値	実績	達成率	目標値	実績	達成率		
経常収支比率	102.0%	109.6%	107.5%	104.0%	102.8%	98.8%	(経常収益/経常費用)×100 病院が安定した経営を行うための指標であり、総収益と総費用との割合で事業活動の能力を表す指標。 この比率は100%以上であることが望ましく、平成23年度の達成率は98.8%で目標を1.2%下回っている。	経常収支比率に影響する医業外費用において本体工事建設費用に伴う消費税増により経常収支比率が前年度より減となりました。
医業収支比率	90.3%	98.7%	109.3%	91.8%	98.0%	106.8%	(医業収益/医業費用)×100 医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標であり、医業活動の能力を表す指標。 この指標は経常収支比率同様100%以上であることが望ましく、平成23年度は6.2%目標値を上回っている。	平成23年度は前年度と比べ入院・外来患者共に減少しましたが平成22年度に一般病棟看護配置基準13対1から10対1へ基準引き上げ等により目標値を上回ることができました。
病床利用率	89.5%	80.2%	89.6%	89.5%	78.6%	87.8%	(年延入院患者数/年延病床数)×100 病院の施設が有効に活用されているかどうかを判断する指標。 この指標は高い方が望ましく、平成23年度の達成率は78.6%と平成22年度と比較し1.6%減少となっている。	平均在院日数の短縮(平成22年度24.2→平成23年度18.3)によりベッドの回転率が上がった事に伴う空病床の発生にて、目標値を下回ってしまいました。病床利用率は収益にかなりの影響を与えるため今後一層利用率の向上に努める事が必要です。
職員給与費比率	71.6%	70.5%	98.5%	72.3%	69.8%	96.5%	(職員給与費/医業収益)×100 病院において職員給与費は最も大きなウェイトを占める医業費用であり、医業収益と人件費の割合で職員数が適正かを判断する指標 この指標は低い方が望ましく、平成23年度の達成率は2.5%下がり、前年度対比では0.9%ダウン。	技師の増員等により前年度に比べ1名増となりましたが、医業収入(他会計負担金)の確保により目標値を達成することができました。
職員数	68人	65人	-3人	67人	66人	-1人		

2. 再編・ネットワーク状況

項 目	点 検	評 価
時 期：平成25年度	※平成25年度までに結論を取り纏めることとしています。	地域医療機関との連携を推進するとともに、在宅医療を強化し、医療・介護・福祉・保健との連携を確保し、切れ目のない地域医療を志向する。

3. 経営形態の見直しの状況

項 目	点 検	評 価
時 期：平成25年度		※経営形態について検討を継続する。